

# 官庁施設の木材活用について

北海道開発局営繕部営繕整備課

## はじめに

国土交通省では「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」（平成22年10月1日施行）に基づき、木材の利用に積極的に取り組んできたところで、公共建築物のうち積極的に木造化を促進するとされた公共建築物の木造化率は、年々上昇し令和3年度には97%にまで上昇しています（図1）。

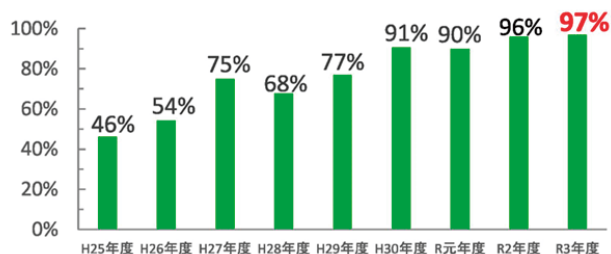


図1 国が整備する公共建築物のうち積極的に木造化を促進するとされた公共建築物の木造化率の推移 ※1

※1 検証チームによる検証結果を踏まえた木造化率（H25年度は非公表の参考値）

木造化率 =  $A \div B \times 100$

A：木造化した低層の公共建築物

B：検証結果を踏まえた積極的に木造化を促進するとされている低層の公共建築物（令和3年10月に策定した基本方針の適用前に整備に着手したものであるため、従前の基本方針を適用）

一方で、民間建築物の木造化率の高い住宅以外の非住宅分野や中高層建築物の木造化率を高めるために、第204回通常国会において「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律の一部を改正する法律」（令和3年法律第77号）が成立し、令和3年10月1日に施行されました。

これにより、法律の題名が「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」（平成22年法律第36号）に変わるとともに法の対象が公共建築物から建築物一般に拡大しました。

（参考）国土交通省：官庁営繕：官庁営繕における木材の利用の推進 [https://www.mlit.go.jp/gobuild/mokuzai\\_index.html](https://www.mlit.go.jp/gobuild/mokuzai_index.html).

## 1 積極的に木造化を促進する公共建築物の範囲

公共建築物の整備においては、木材の利用を促進すべき公共建築物のうち、計画時点において、コストや技術の面で木造化が困難であるものを除く公共建築物等を対象※2とし積極的に木造化を促進するものとしています。ただし、災害時の活動拠点室等を有する災害応急対策活動に必要な施設、刑務所等の収容施設、治安上又は防衛上の目的等から木造化以外の構造とすべき施設、危険物を貯蔵又は使用する施設等のほか、伝統的建築物その他の文化的価値の高い建築物又は博物館内の文化財を収蔵し、若しくは展示する施設など、当該建築物に求められる機能等の観点から、木造化になじまない又は木造化を図ることが困難であると判断されるものについては木造化を促進する対象としないものとしており、その場合でも積極的に内装等の木質化に努めることとしています。

そこで、国土交通省北海道開発局営繕部として取り組んできた代表的な木造化、木質化の事例を写真とともに紹介します。

※2 令和3年度以前は建築基準法その他の法令に基づく基準において耐火建築物とすること又は主要構造部を耐火構造とすることが求められていない低層の公共建築物を対象

## 2 北海道開発局営繕部における木造化及び木質化の事例

### 2.1 木造化事例

#### 1) えりも自然保護官事務所

所在地：北海道幌泉郡えりも町字新浜61-15の内

敷地面積：308.58m<sup>2</sup>

構造・規模：木造2階建て、191.29m<sup>2</sup>

築年：平成30年



写真1 えりも自然保護官事務所 外観

えりも自然保護官事務所は、ゼニガタアザラシの保護管理やシマフクロウの保護増殖等の拠点として建てられた木造化を促進する事務庁舎で、建物の構法は、市場に流通している地域木材や地元の技術力・労働力を活用することが可能となるように、地元の中小建設会社や工務店でも施工できる一般的な軸組構法としています。

内外装材は、親しみやすく経年による木の味わいを感じられるように、主に無垢材を採用しています。

表1 えりも自然保護官事務所の木材活用箇所

室名	部位	材種・樹種	仕上げ	産地
外部	壁(一部)	羽目板(無垢材)・カラマツ	木材保護塗料	北海道
風除室・ホール	腰壁	羽目板(無垢材)・カラマツ	ウレタン樹脂ワニス	北海道
	ブラインドボックス	集成材・タモ	ウレタン樹脂ワニス	北海道
事務室	幅木	無垢材・カラマツ	ウレタン樹脂ワニス	北海道
	ブラインドボックス	集成材・タモ	ウレタン樹脂ワニス	北海道
車庫・倉庫	柱・手摺	無垢材・トドマツ	素地	北海道
	階段(踏板・ササラ桁)	集成材・タモ	ウレタン樹脂ワニス	北海道



写真2 えりも自然保護官事務所 ホール、事務所、車庫・倉庫（左から）

## 2) 宗谷森林管理署

所在地：北海道稚内市港4丁目2456

敷地面積：783.38m<sup>2</sup>

構造・規模：木造2階建て，473.41m<sup>2</sup>

築年：平成30年

宗谷森林管理署は、宗谷管内の国有林の管理経営を行っている事務庁舎で、えりも自然保護官事務所と同様に軸組構法としています。また、木とのつながりが強い官署にふさわしい仕上げとするため、外壁及び事務室・会議室の壁には道内で調達可能なカラマツ・トドマツなどの羽目板を、内部の床にはフローリング張り、階段には集成材を使用しています。さらに、新しい技術として建具の一部にCLTを採用したり、玄関

ホールにペレットストーブを設置し、燃焼する炎の暖かさが感じられるように配慮するなど木材を積極的に活用しています。



写真3 宗谷森林管理署 外観

表2 宗谷森林管理署木材活用箇所

室名	部位	材種・樹種	仕上げ	産地
外部	壁(一部)	羽目板・カラマツ	木材保護塗料	北海道
ホール・階段	床	複合フローリング・ナラ	耐キャストWPC加工	国内
	踏板	集成材・ナラ	素地	北海道
	建具	(扉, 窓枠)CLT・マツ	(扉)木材保護塗料, (窓枠)クリアラッカー	北海道
事務室・会議室	床	複合フローリング・ナラ	耐キャストWPC加工	国内
	壁	羽目板・トドマツ	素地	北海道
	建具	(扉, 窓枠)CLT・マツ	(扉)木材保護塗料, (窓枠)クリアラッカー	北海道
署長室	床	複合フローリング・ナラ	耐キャストWPC加工	国内
	壁	積層合板・シラカバ	素地	北海道
	建具	(扉, 窓枠)CLT・マツ	(扉)木材保護塗料, (窓枠)クリアラッカー	北海道

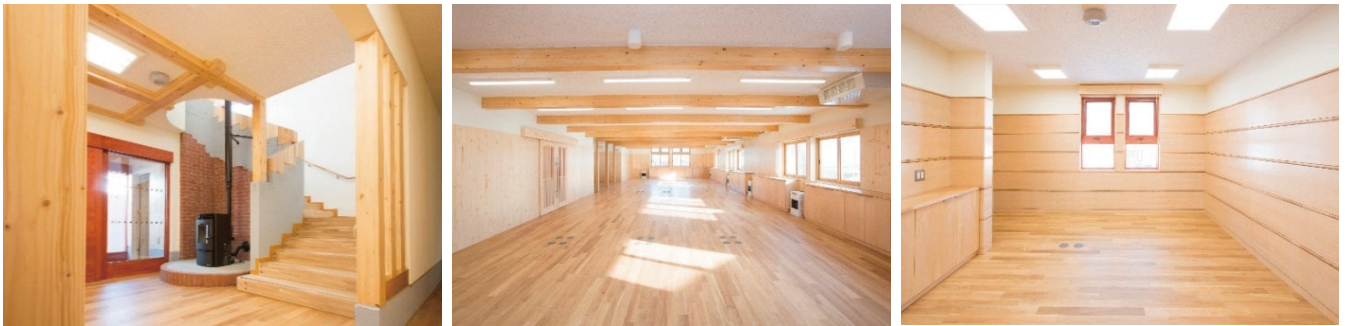


写真4 宗谷森林管理署 ホール, 事務所, 所長室 (左から)

## 2.2 木質化事例

### 1) ウポポイ体験交流ホール

所在地：北海道白老郡白老町若草町

敷地面積：18,667.34m<sup>2</sup>

構造・規模：鉄骨造2階建て, 4,648.98m<sup>2</sup>

築年：令和元年



写真5 ウポポイ体験交流ホール 外観 (夜景)

ウポポイ体験交流ホールは、重要無形民俗文化財指

定の「アイヌ古式舞踊」やムックリ演奏をはじめとして、ユネスコ無形文化遺産にも登録されているアイヌの伝統芸能を上演するためにウポポイに建てられたホールです。木造化を促進する建物ではありませんが、来館者を木の暖かみで迎え入れるため、ホワイエの壁やベンチに木を積極的に採用しています。

また、ステージには演舞にふさわしく、暖かみのある木床を採用しています。

表3 ウポポイ体験交流ホールの木材活用箇所

室名	部位	材種・樹種	仕上げ	産地
ホワイエ	壁	練り付け材・ニレ	ウレタン樹脂ワニス	北海道
	ベンチ	集成材・タモ	ウレタン樹脂ワニス	中国
ステージ	床	複合フローリング・ナラ	塗装品	ロシア



写真6 ウポポイ体験交流ホール ホワイエ、ステージ、ステージ（左から）

## 2) 国立アイヌ民族博物館

所在地：北海道白老郡白老町若草町

敷地面積：10,000.25m<sup>2</sup>

構造・規模：鉄骨造(一部鉄骨鉄筋コンクリート造)  
3階建て、8,578.99m<sup>2</sup>

築年：令和2年

国立アイヌ民族博物館は、先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与する施設です。品格と親しみやすさを備えた自然と共生する施設とするため、周辺の自然景観となじみ、時とともに深みを増すような自然素材を積極的に取り入れ、来館者の目に触れや



写真7 国立アイヌ民族博物館 外観

すい軒天井やエントランスホール、ライブラリー・パノラミックロビー等の内装の一部に木仕上げを採用しています。

表4 国立アイヌ民族博物館の木材活用箇所

室名	部位	材種・樹種	仕上げ	産地
外部	軒天井	熱処理木材・スギ	素地	岐阜県
エントランスホール、ライブラリー、ミュージアムショップ	天井	練り付け材・スギ	素地	北海道
パノラミックロビー、展示室	床、幅木	(床)複合フローリング・ナラ	(床)UV塗装品	(床)表地：ルーマニア、基材：宮城県



写真8 国立アイヌ民族博物館 エントランスホール、ライブラリー、パノラミックロビー（左から）

## 3) 帯広第2地方合同庁舎

所在地：北海道帯広市西4条南8丁目

敷地面積：11,922.79m<sup>2</sup>

構造・規模：鉄骨鉄筋コンクリート造6階建て  
8,705.01m<sup>2</sup>

築年：令和元年

災害対策活動を行う帯広開発建設部，帯広財務事務所が入居する木造化を促進しない合同庁舎ですが，来庁者を木の暖かみで迎え入れるため，玄関ホールの床，壁，天井の一部を木仕上げとしています。また，来客者等，国民の目に触れる機会が多い展示コーナーや上級室の壁面の一部を木仕上げとするなど積極的に木質化を行っています。



写真9 帯広第2地方合同庁舎 外観

表5 帯広第2地方合同庁舎の木材活用箇所

室名	部位	材種・樹種	仕上げ	産地
上級室	幅木	製材・ナラ	ウレタン樹脂ワニス	北海道
	壁	化粧合板・ナラ	ウレタン樹脂ワニス	北海道
玄関ホール 展示コーナー	床	単層フローリング・ナラ	塗装品	北海道
	幅木	製材・ナラ	ウレタン樹脂ワニス	北海道
	壁	練り付け材・ナラ	ウレタン樹脂ワニス	北海道
	天井ルーバー	製材・ナラ	ウレタン樹脂ワニス	北海道



写真10 帯広第2地方合同庁舎 玄関ホール，展示コーナー，上級室（左から）

#### 注

掲載している写真の著作権はすべて北海道開発局営繕部に帰属していますので転載・転用は一切禁止します。

#### 謝辞

北海道開発局では，実施事業について知る機会の提供，意見を聞かせていただく場，の2点を目的とした「出前講座」事業を実施されています。

本原稿は，出前講座メニューのひとつである「官庁施設の木材活用について」をご紹介いただいたものです。ご執筆，掲載を快諾いただいた開発局営繕部営繕整備課の皆さまに深く感謝申し上げます。

1) 出前講座のご案内：<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ki/kouhou/splaat00000046k7.html>

(普及協会・菊地)